

中小企業景況調査報告書

平成 22年 7月～9月 実績

平成 22年 10月～12月 予測

京都府商工会連合会

目 次

1. 中小企業景況調査の概要(京都府).....	2 ~ 3
2. 京都府内産業全体の景況.....	4 ~ 5
3. 製造業の景況.....	6 ~ 8
4. 建設業の景況.....	9 ~ 11
5. 小売業の景況.....	12 ~ 14
6. サービス業の景況.....	15 ~ 17

D・Iとは

この報告書の中で用いているD・I指数とは、デیفュ・ジョン・インデックスの略で、企業経営者の景気動向の度合いを表す指標として利用されています。

算出方法

増加（上昇・好転・長期化等）企業割合 - 減少（低下・悪化・短期化等）企業割合

D・Iが、プラス（+）値..... 強気（楽観）を表す。

D・Iが、マイナス（-）値..... 弱気（悲観）を表す。

例えば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減小企業20%の場合、

D・I指数は $50\% - 20\% = 30\%$

となり、経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

中小企業景況調査の概要 (京都府)

この調査は、商工会地域の産業の状況等地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速・的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするため、昭和54年度から全国商工会連合会と提携し、全国一斉に実施しているものです。

調査要領と、本年度の調査対象商工会及び調査回答企業数の内訳は次のとおりです。

1. 調査対象期間

平成22年7月～9月期を対象とし、調査実施時点は9月1日(水)、実施期間は8月25日(水)～9月1日(水)とした。

2. 調査の方法

- (1) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。
- (2) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

3. 調査対象商工会及び回答企業数 (調査対象企業数 180企業)

商工会名	製造業	回答数	建設業	回答数	小売業	回答数	サービス業	回答数	構成比
福知山市	3	3	3	3	4	4	5	5	100.0%
向日市	3	3	2	2	4	4	6	6	100.0%
八幡市	3	3	3	3	4	4	5	5	100.0%
京丹後市	6	6	4	3	11	10	9	8	90.0%
南丹市	3	3	3	3	4	4	5	5	100.0%
大山崎町	2	2	3	3	4	4	6	6	100.0%
井手町	4	4	3	3	5	5	3	3	100.0%
宇治田原町	3	2	3	3	4	4	5	5	93.3%
木津川市木津町	3	3	3	3	5	5	4	4	100.0%
京丹波町	3	3	3	2	4	3	5	5	86.7%
与謝野町	3	3	3	3	4	4	5	5	100.0%
合計	36	35	33	31	53	51	58	57	96.7%

対象業種別構成等

業 種 別		対象企業数	構 成 比	回答企業数	回 答 率
製造業	09 食 料 品 製 造 業	2	5.6%	2	100.0%
	10 飲 料 ・ た ば こ ・ 飼 料 製 造 業	1	2.8%	1	100.0%
	11 織 維 工 業	8	22.2%	8	100.0%
	15 印 刷 ・ 同 関 連 業	2	5.6%	2	100.0%
	16 化 学 工 業	1	2.8%	1	100.0%
	18 プ ラ ス チ ッ ク 製 品 製 造 業	2	5.6%	1	50.0%
	22 鉄 鋼 業	1	2.8%	1	100.0%
	23 非 鉄 金 属 製 造 業	1	2.8%	1	100.0%
	24 金 属 製 品 製 造 業	10	27.8%	10	100.0%
	26 生 産 用 機 械 器 具 製 造 業	1	2.8%	1	100.0%
	28 電 子 部 品 ・ デ バ イ ス ・ 電 子 回 路 製 造 業	1	2.8%	1	100.0%
	29 電 気 機 械 器 具 製 造 業	1	2.8%	1	100.0%
	31 輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業	3	8.3%	3	100.0%
	32 そ の 他 の 製 造 業	2	5.6%	2	100.0%
	小 計	36	20.0%	35	97.2%
建設業	06 総 合 工 事 業	20	60.6%	19	95.0%
	07 職 別 工 事 業	8	24.2%	7	87.5%
	08 設 備 工 事 業	5	15.2%	5	100.0%
		小 計	33	18.3%	31
小売業	56 各 種 商 品 小 売 業	3	5.7%	3	100.0%
	57 織 物 ・ 衣 服 ・ 身 の 回 り 品 小 売 業	3	5.7%	3	100.0%
	58 飲 食 料 品 小 売 業	22	41.5%	21	95.5%
	59 機 械 器 具 小 売 業	7	13.2%	7	100.0%
	60 そ の 他 の 小 売 業	17	32.1%	16	94.1%
	61 無 店 舗 小 売 業	1	1.9%	1	100.0%
	小 計	53	29.4%	51	96.2%
サービス業	43 道 路 旅 客 運 送 業	1	1.7%	0	0.0%
	44 道 路 貨 物 運 送 業	1	1.7%	1	100.0%
	68 不 動 産 取 引 業	1	1.7%	1	100.0%
	69 不 動 産 賃 貸 業 ・ 管 理 業	1	1.7%	1	100.0%
	72 専 門 サ ー ビ ス 業	3	5.2%	3	100.0%
	74 技 術 サ ー ビ ス 業	3	5.2%	3	100.0%
	75 宿 泊 業	4	6.9%	4	100.0%
	76 飲 食 店	13	22.4%	13	100.0%
	78 洗 濯 ・ 理 容 ・ 美 容 ・ 浴 場 業	17	29.3%	17	100.0%
	79 そ の 他 の 生 活 関 連 サ ー ビ ス 業	2	3.4%	2	100.0%
	82 そ の 他 の 教 育 、 学 習 支 援 業	1	1.7%	1	100.0%
	88 廃 棄 物 処 理 業	2	3.4%	2	100.0%
	89 自 動 車 整 備 業	7	12.1%	7	100.0%
92 そ の 他 の 事 業 の サ ー ビ ス 業	2	3.4%	2	100.0%	
	小 計	58	32.2%	57	98.3%
合 計		180	100.0%	174	96.7%

* 対象業種区分は「平成22年度中小企業景況調査実施要領」による。

京都府内産業全体の景況




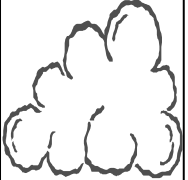
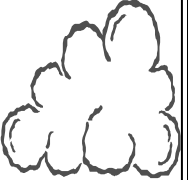
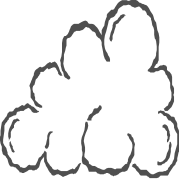

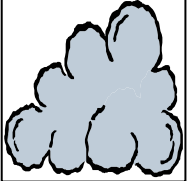
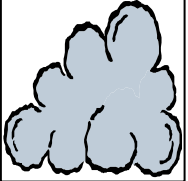






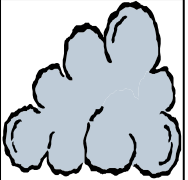








(概要)

売上高は、製造業に前期(4～6月期)大幅な改善がみられ、今期も引き続き好調を維持した。建設業とサービス業については依然として低位での厳しい状況にあるが受注高に若干の改善が見られる。小売業全体としては、大型店等との価格競争、低価格志向の強まりから4期ぶりの悪化となったが、家電販売については猛暑によるエコ家電の需要が好調であった。

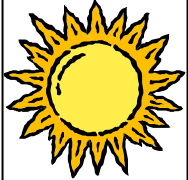
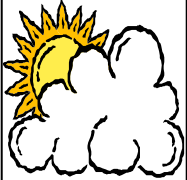
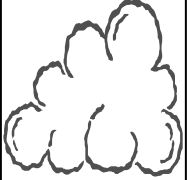



また、採算については小売業を除く業種でなだらかな改善傾向が21年7月から続いている。

9月時点における来期の売上高の見通しについては、製造業は円高等による先行き不安があるものの引き続き好調を示し、小売業についてはエコカー補助金終了等による悪化が見込まれている。また建設業は公共事業受注の動きから若干の改善が見込め、サービス業については年末需要の拡大が見込まれている。

業種別景況指標 (景気の天気図)

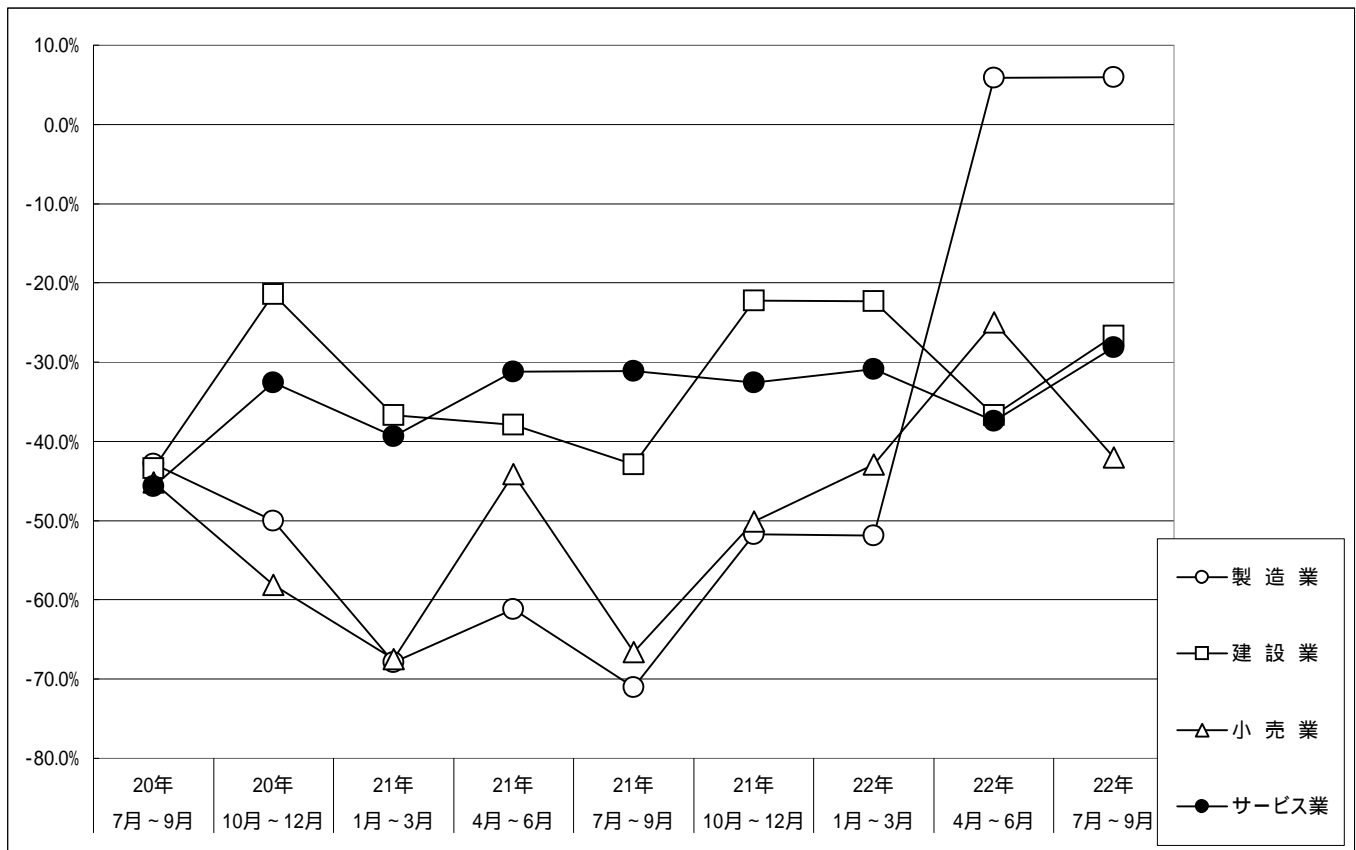
	21年 7月～9月	10月～12月	22年 1月～3月	4月～6月	7月～9月	(見通し) 10月～12月
製造業						
建設業						
小売業						
サービス業						

天気図のよみ方

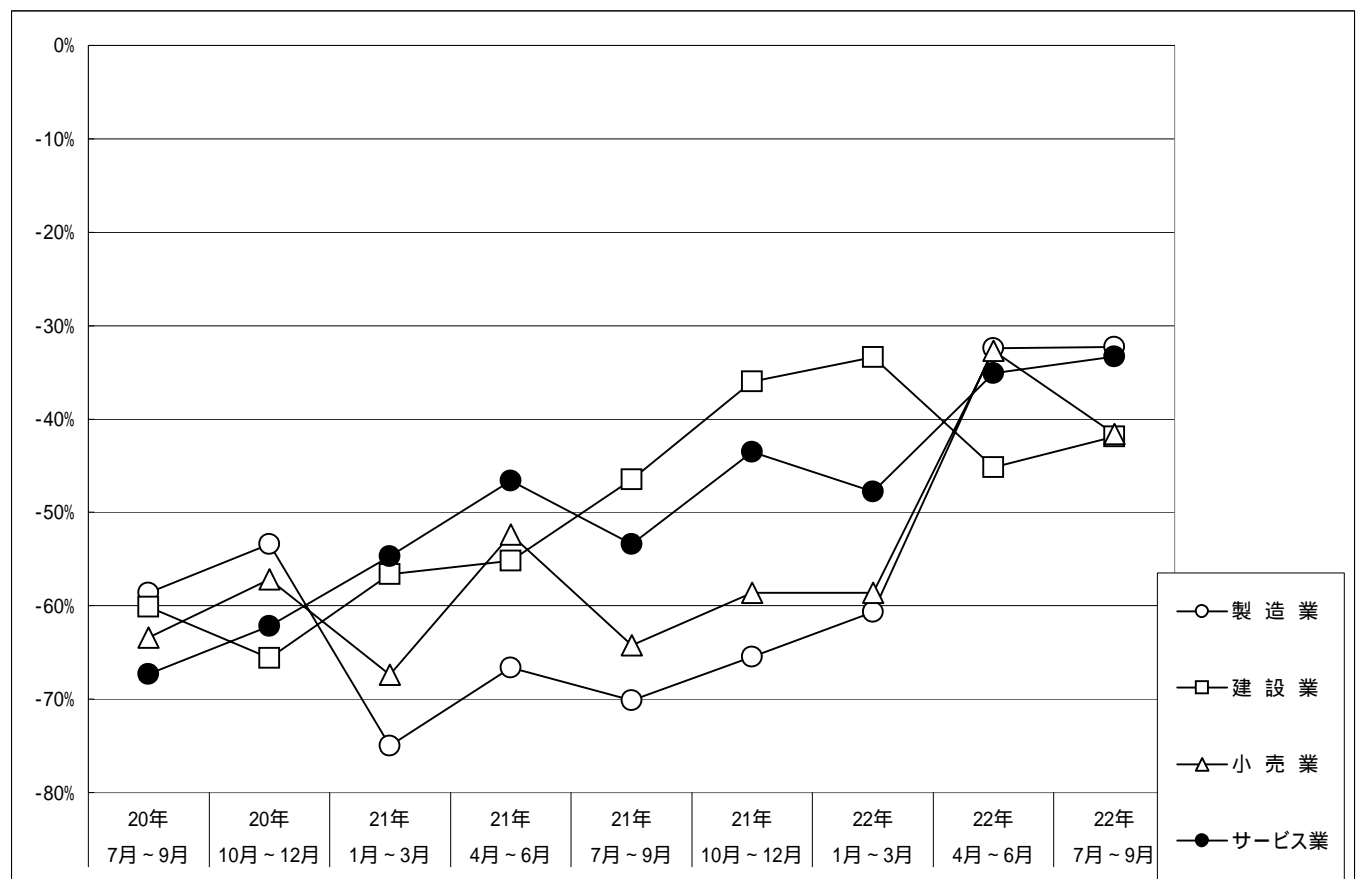
D・I値	50.1～100.0	25.1～50.0	0.1～25.0	0.0～25.0	25.1～50.0	50.1～100
指標						
内容	特に好転	好転	やや好転	やや悪化	悪化	特に悪化

2.売上高と採算の推移

売上高D・I (景気動向指数) の推移 - 前年同期比 -



採算D・I (景気動向指数) の推移 前年同期比



3. 製造業の景況

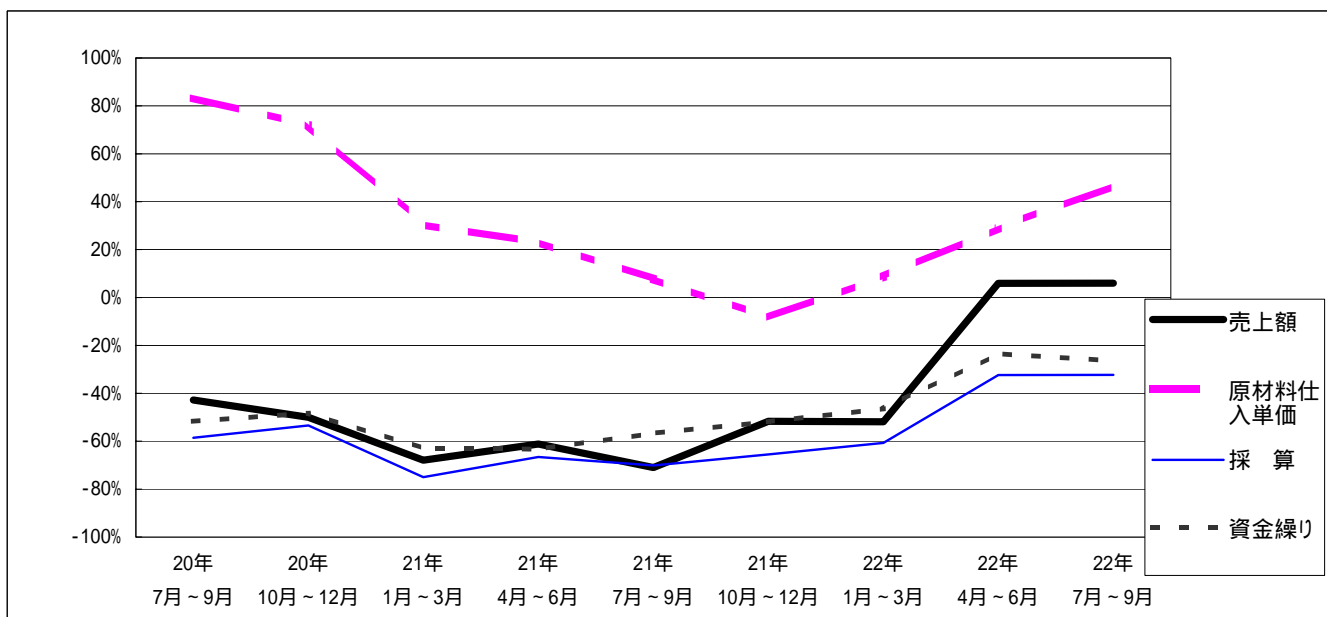
製造業の推移

・D・I（景気動向指数・前年同期比）は、売上額がプラス6.0（前期比0.1ポイント上昇）になった。採算はマイナス32.3（同0.1ポイント上昇）、資金繰りはマイナス26.4（同2.9ポイント低下）となり全ての指数でほぼ横ばいとなっている。

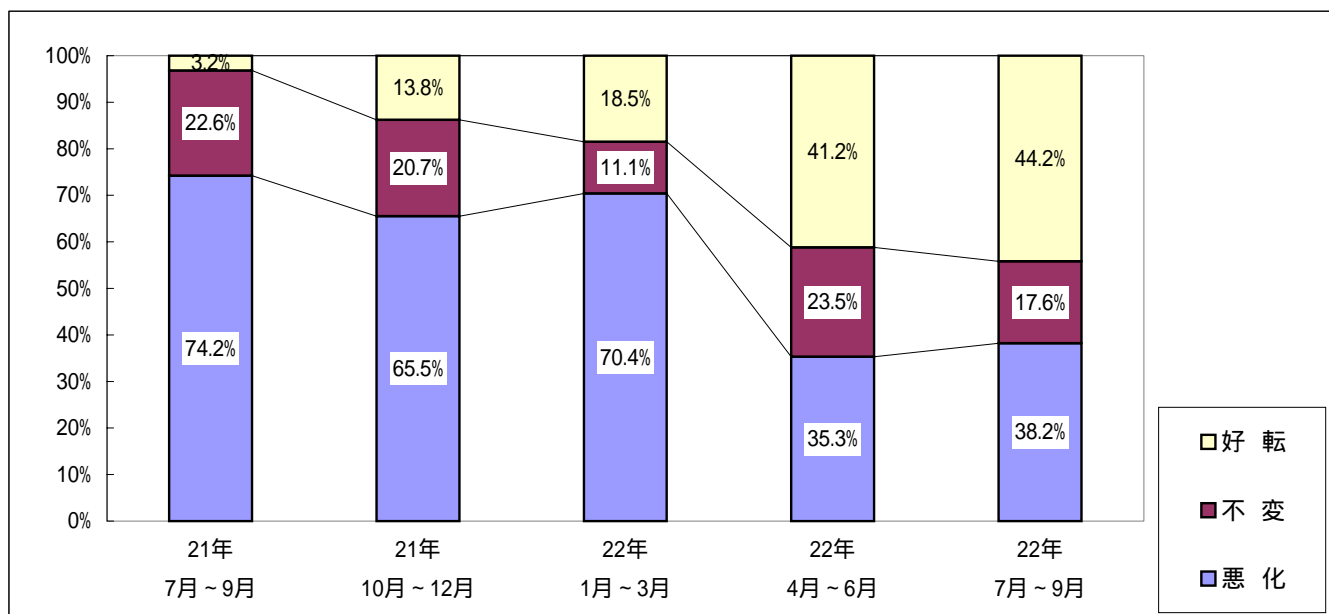
経営上の問題点については依然として『需要の停滞』が1位を占め、2位には『製品（加工）単価の低下、上昇難』となっている。

製造業	21年 7月～9月	21年 10月～12月	22年 1月～3月	22年 4月～6月	22年 7月～9月	22年 10月～12月
売上額	-71.0%	-51.7%	-51.9%	5.9%	6.0%	5.7%
原材料仕入単価	7.7%	-8.3%	8.7%	29.0%	46.7%	41.4%
採算	-70.1%	-65.5%	-60.7%	-32.4%	-32.3%	-26.4%
資金繰り	-56.7%	-51.9%	-46.4%	-23.5%	-26.4%	-20.6%

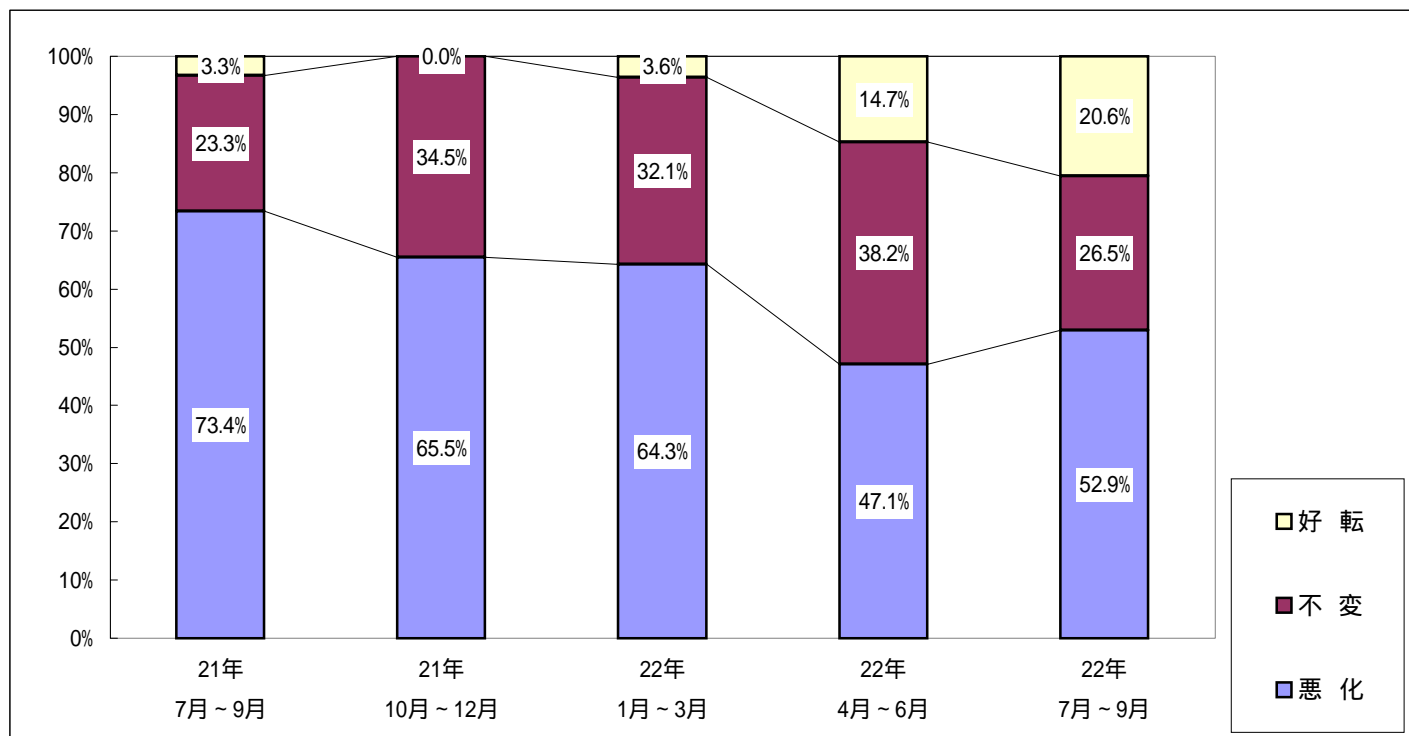
製造業 D・I（景気動向指数）の推移 - 前年同期比 -



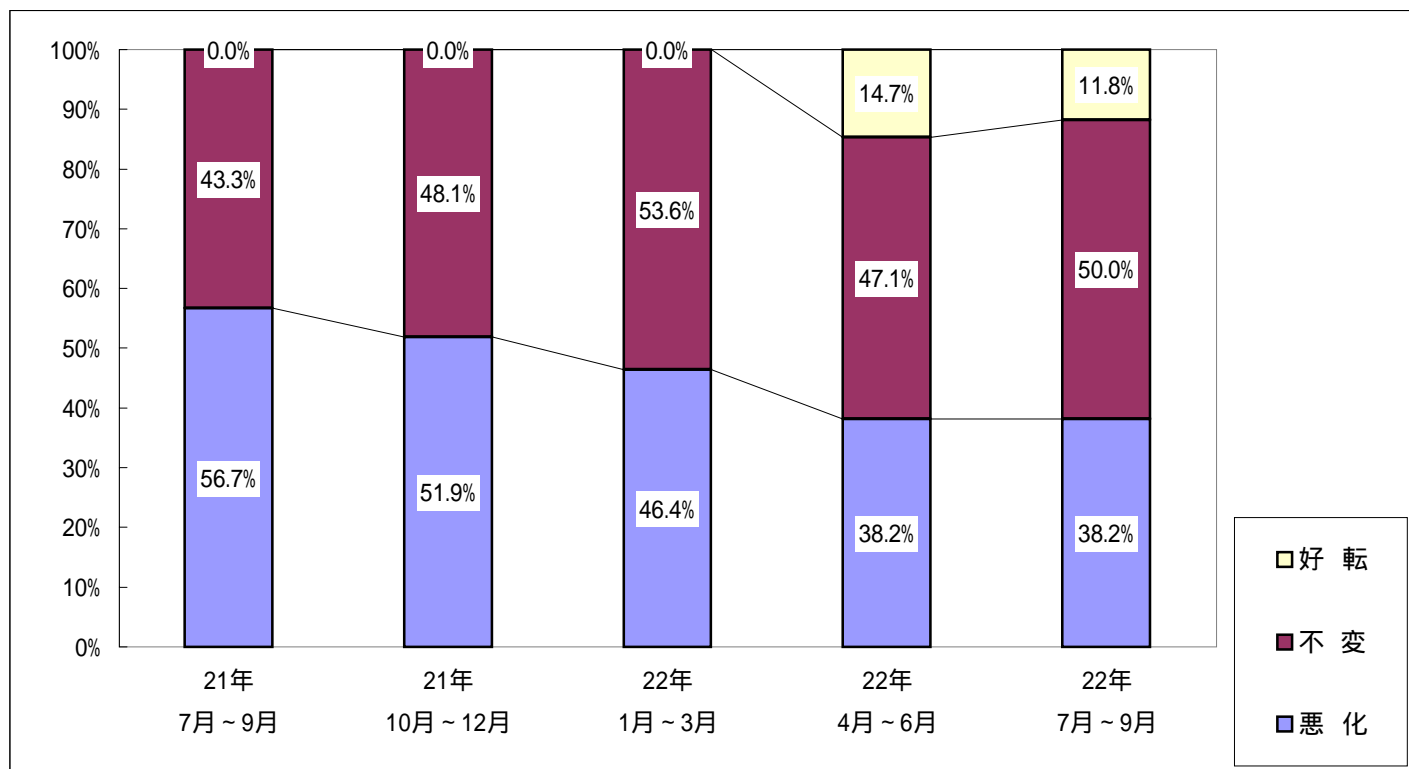
売上（加工）額の状況 前年同期比（D・I値）



採算の状況 前年同期比（D・I値）



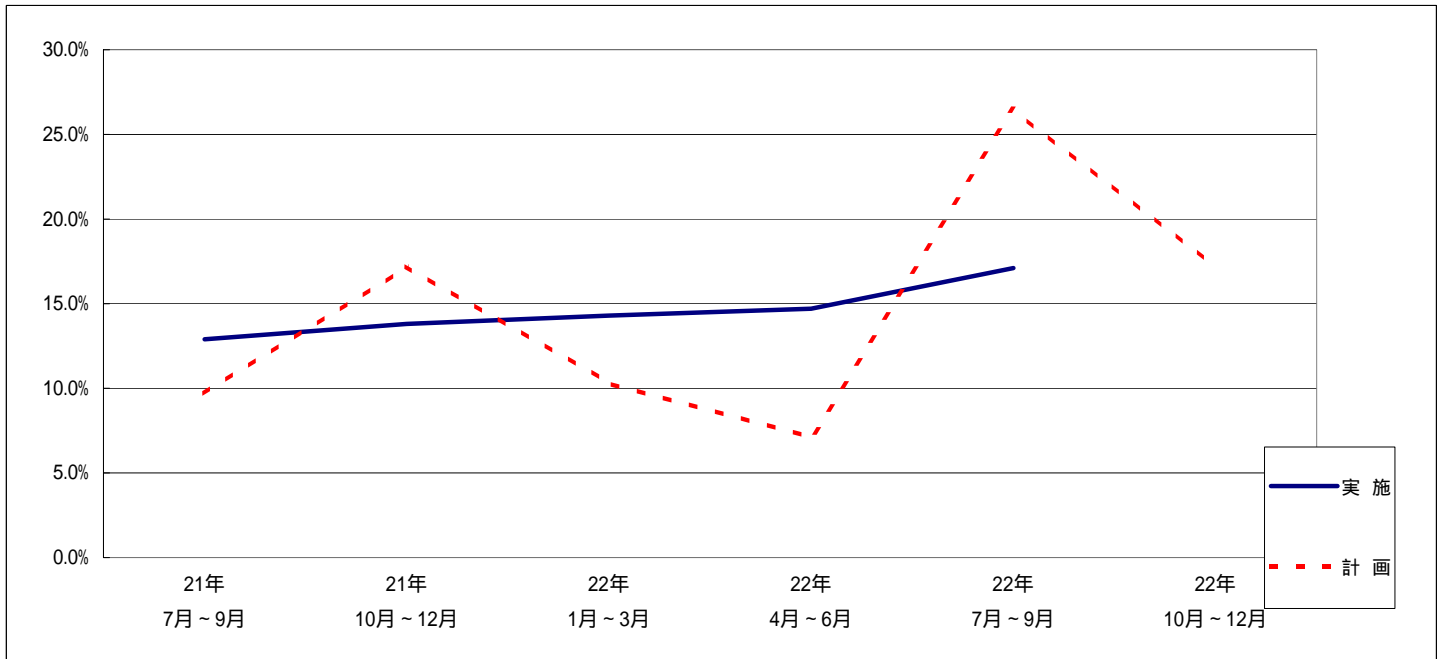
資金繰りの状況 前年同期比（D・I値）



設備投資の状況

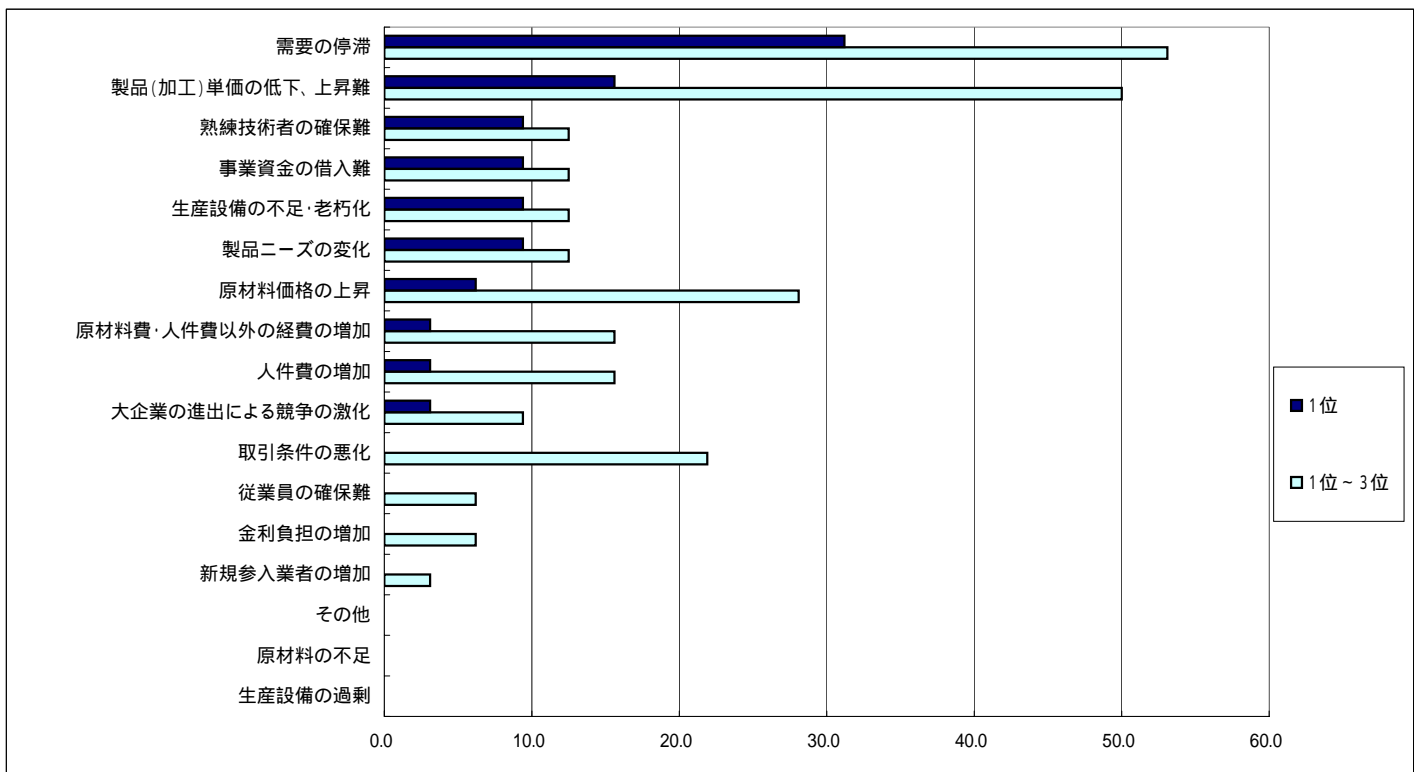
製造業	21年 7月～9月	21年 10月～12月	22年 1月～3月	22年 4月～6月	22年 7月～9月	22年 10月～12月
土地	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	25.0%	50.0%	25.0%	40.0%	16.7%	16.7%
生産設備	75.0%	100.0%	100.0%	20.0%	50.0%	66.7%

22年10月～12月期については計画の数値を入力



計画については調査実施時期を基準に翌期の予定を記入のため折線グラフに期の差が生じる。

経営上の問題点



(注)問題点の1位にあげた企業の割合

4. 建設業の景況

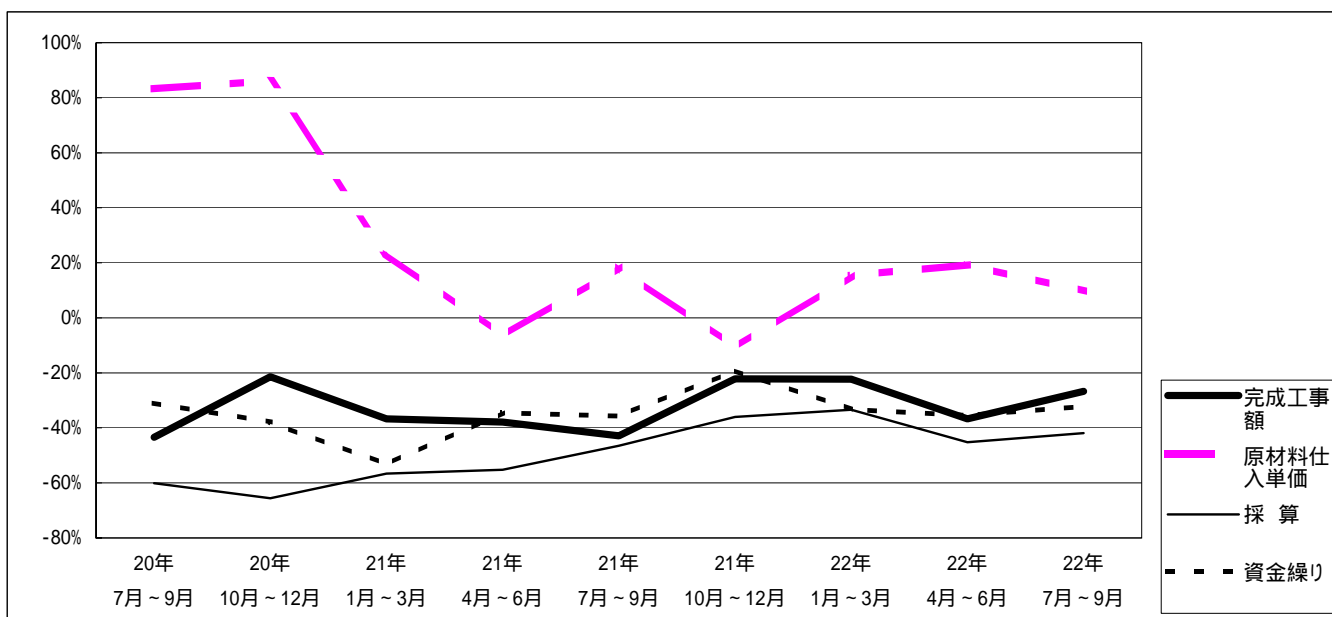
建設業の推移

・D・I（景気動向指数・前年同期比）は、完成工事額がマイナス26.7（前期比10.0ポイント上昇）になり、採算はマイナス41.9（同3.3ポイント上昇）となった。資金繰りもマイナス32.2（同3.3ポイント上昇）となりほぼ全ての指数で僅かながら改善された。

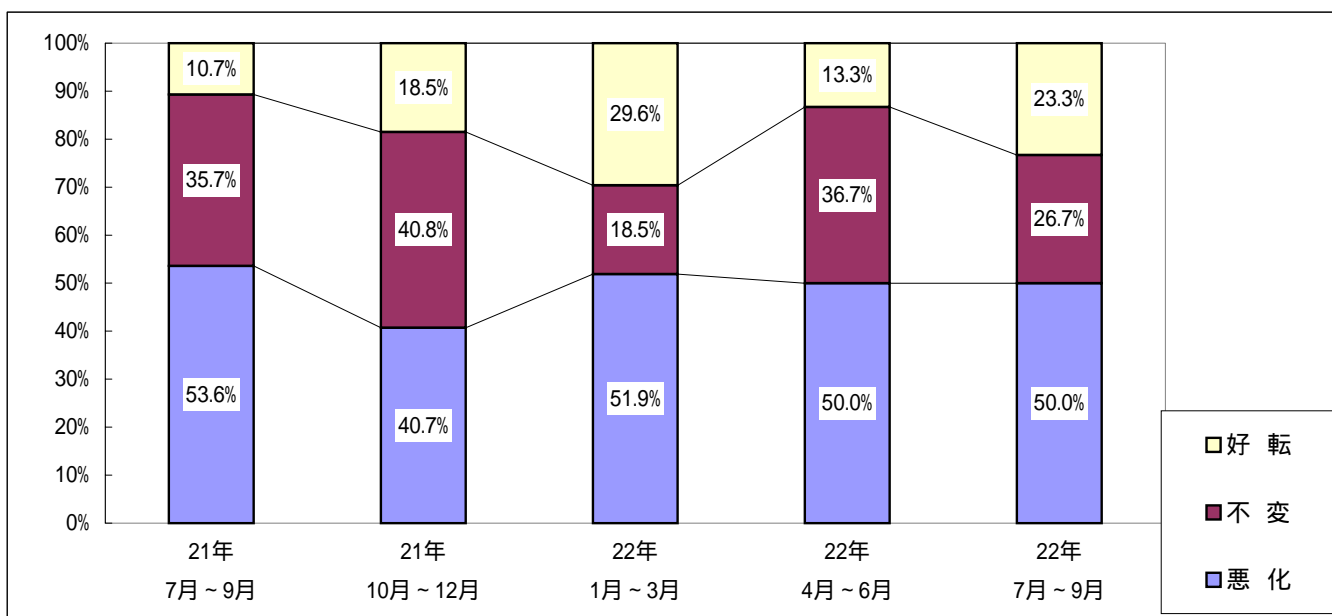
経営上の問題点については長期間1位を占めていた『官公需要の停滞』が3位となり、『請負単価の低下、上昇難』が1位を占め、2位は『民間需要の停滞』となった。

建設業	21年 7月～9月	21年 10月～12月	22年 1月～3月	22年 4月～6月	22年 7月～9月	22年 10月～12月
完成工事額	-42.9%	-22.2%	-22.3%	-36.7%	-26.7%	-16.6%
原材料仕入単価	18.5%	-11.1%	15.4%	19.3%	9.7%	3.2%
採算	-46.5%	-36.0%	-33.4%	-45.2%	-41.9%	-41.9%
資金繰り	-35.7%	-19.2%	-33.3%	-35.5%	-32.2%	-9.7%

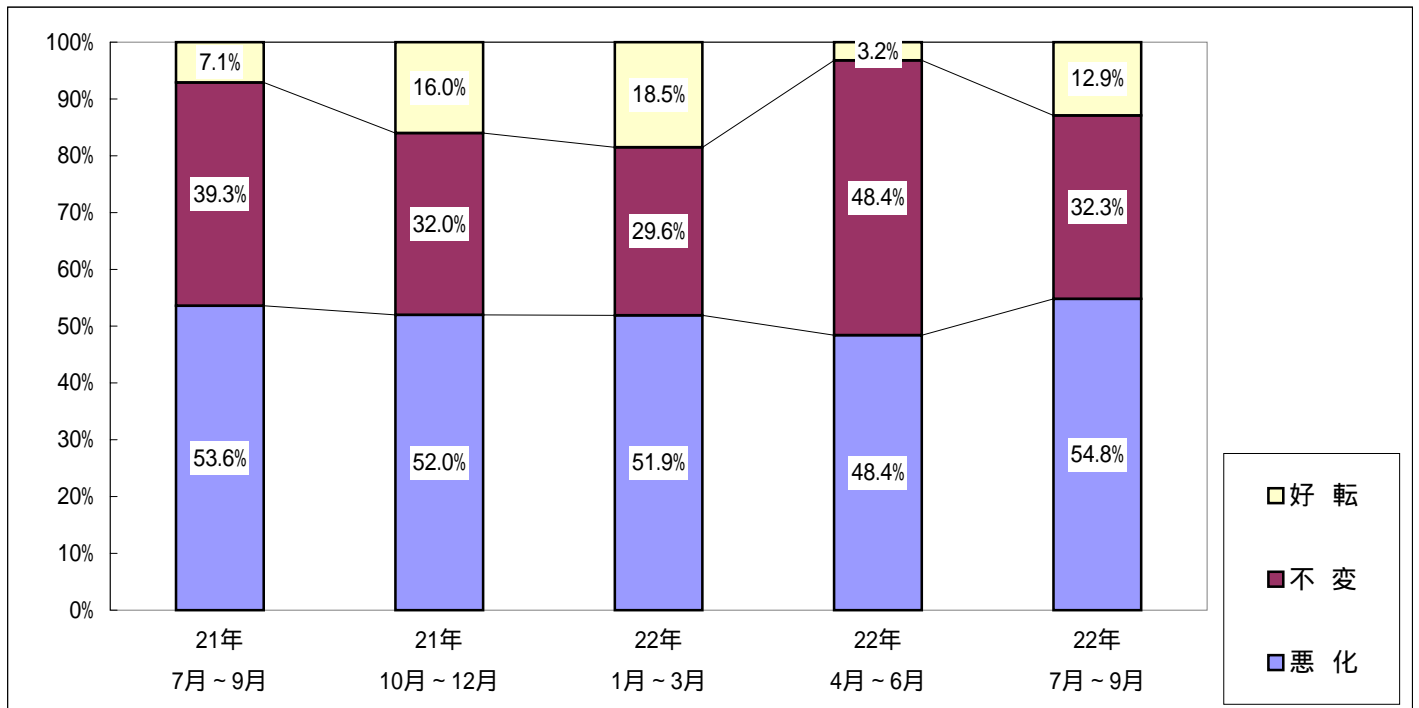
建設業 D・I（景気動向指数）の推移 - 前年同期比 -



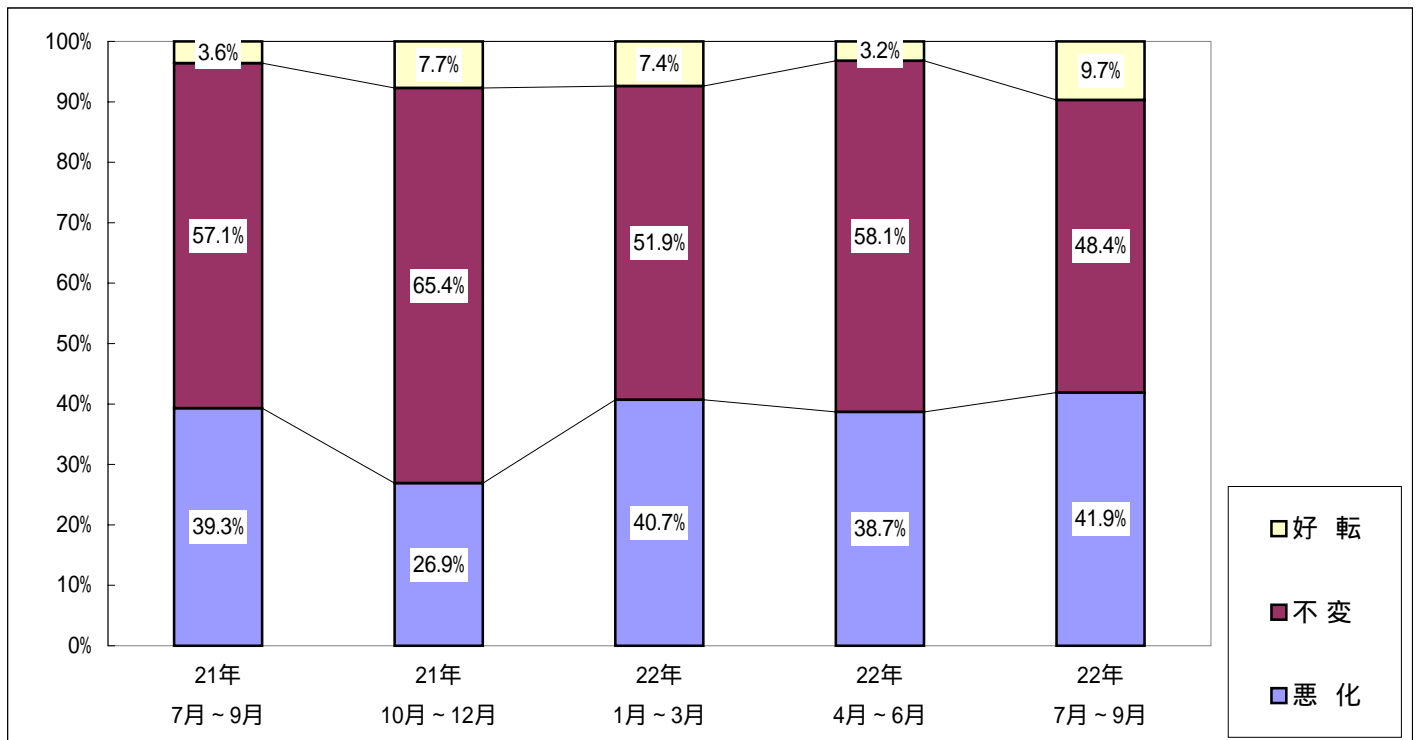
完成工事額の状況 前年同期比（D・I値）



採算の状況 前年同期比（D・I値）



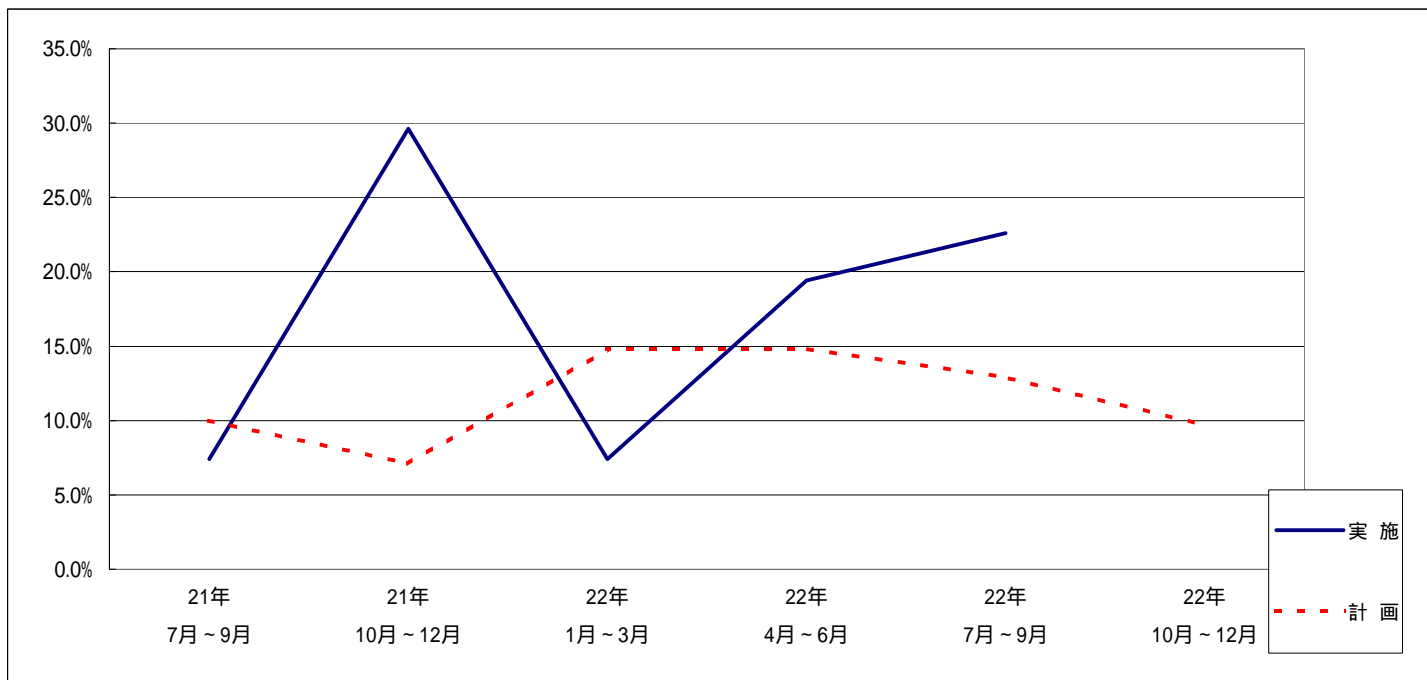
資金繰りの状況 前年同期比（D・I値）



設備投資の状況

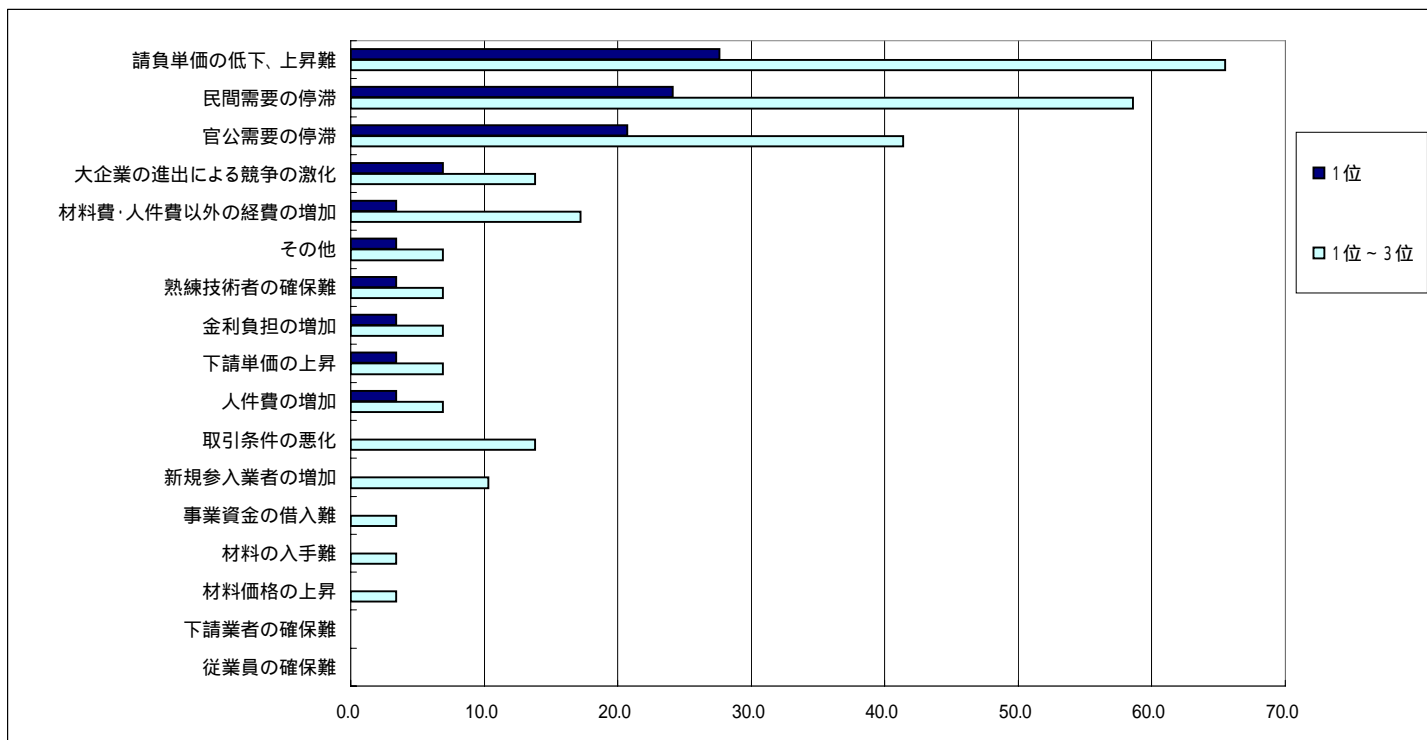
建設業	21年 7月～9月	21年 10月～12月	22年 1月～3月	22年 4月～6月	22年 7月～9月	22年 10月～12月
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	50.0%	37.5%	50.0%	66.7%	71.4%	33.3%
建設機械	50.0%	12.5%	50.0%	0.0%	14.3%	66.7%

22年10月～12月期については計画の数値を入力



計画については調査実施時期を基準に翌期の予定を記入のため折線グラフに期の差が生じる。

経営上の問題点



(注)問題点の1位にあげた企業の割合

5. 小売業の景況

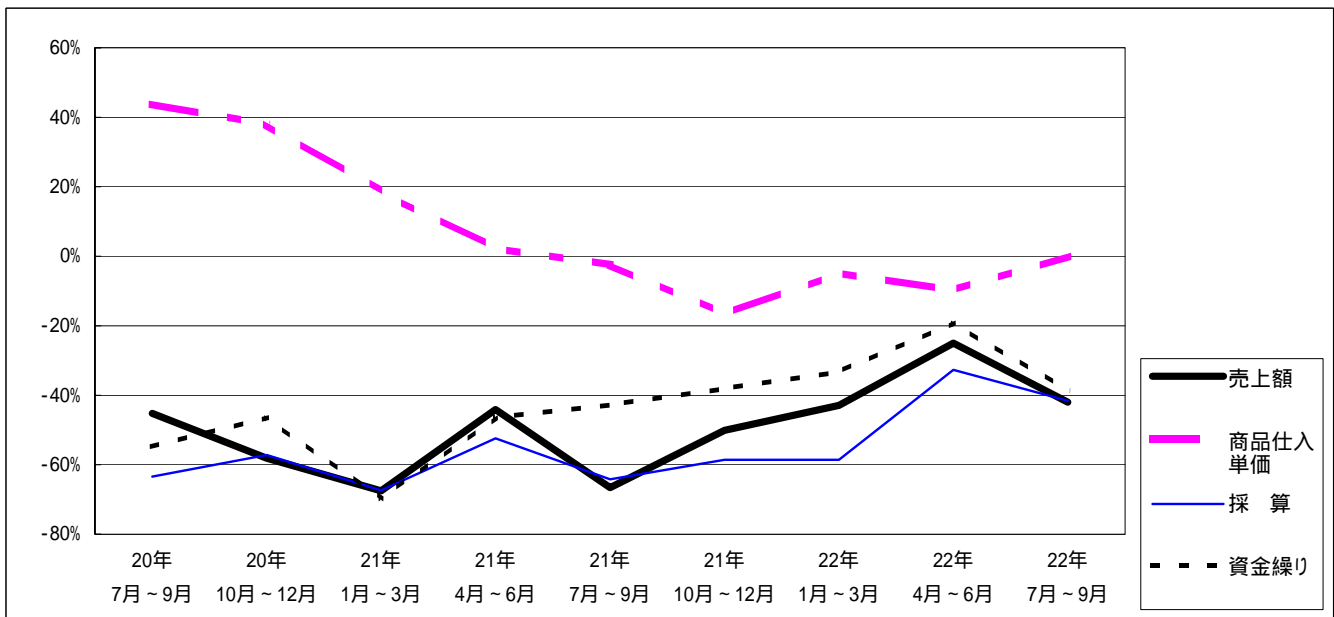
小売業の推移

・D・I（景気動向指数・前年同期比）は、売上額がマイナス42.0（前期比17.0ポイント低下）となった。採算はマイナス41.6（同8.9ポイント低下）となり、資金繰りもマイナス38.7（同19.5ポイント低下）となり6期ぶりに低下となり、主な指数が全て悪化となった。

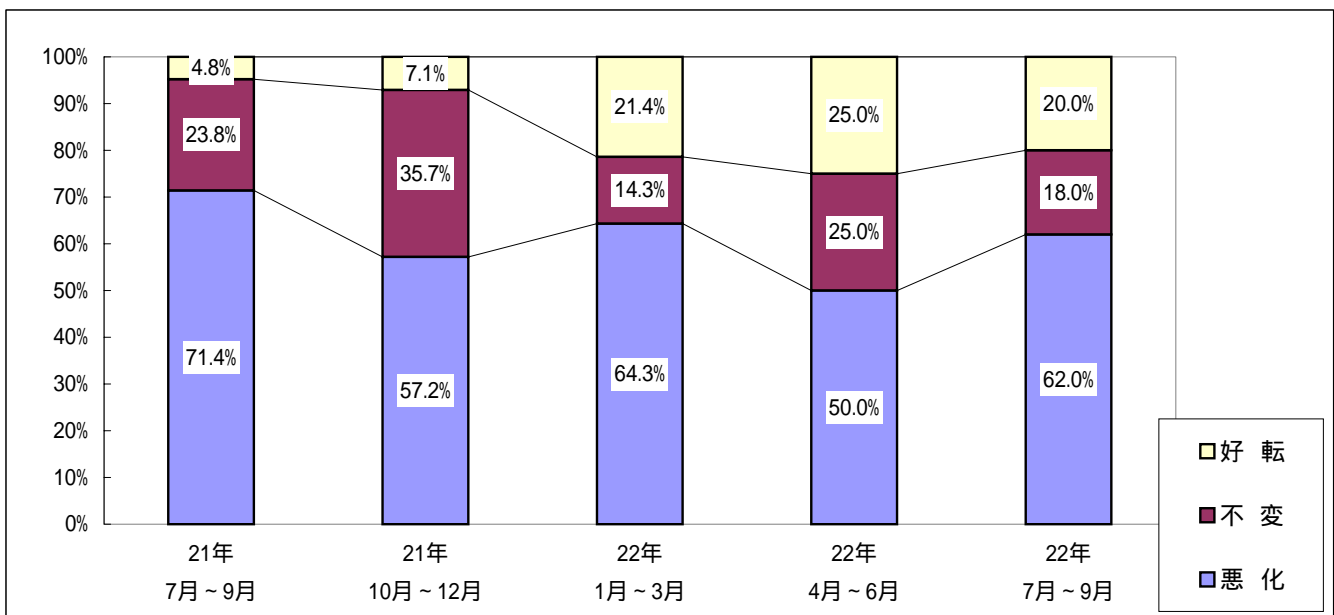
しかし、エコカー減税の駆け込み需要及び猛暑によるエコ家電販売店については非常に好調であった。経営上の問題点については『需要の停滞』が1位、2位には『大型店・中型店の進出による競争の激化』となりこの2つの問題点が依然、上位を占めている。

小売業	21年 7月～9月	21年 10月～12月	22年 1月～3月	22年 4月～6月	22年 7月～9月	22年 10月～12月
売上額	-66.6%	-50.1%	-42.9%	-25.0%	-42.0%	-45.0%
商品仕入単価	-2.4%	-16.7%	-4.8%	-9.8%	0.0%	-4.2%
採算	-64.2%	-58.6%	-58.6%	-32.7%	-41.6%	-45.9%
資金繰り	-42.8%	-38.1%	-33.3%	-19.2%	-38.7%	-38.3%

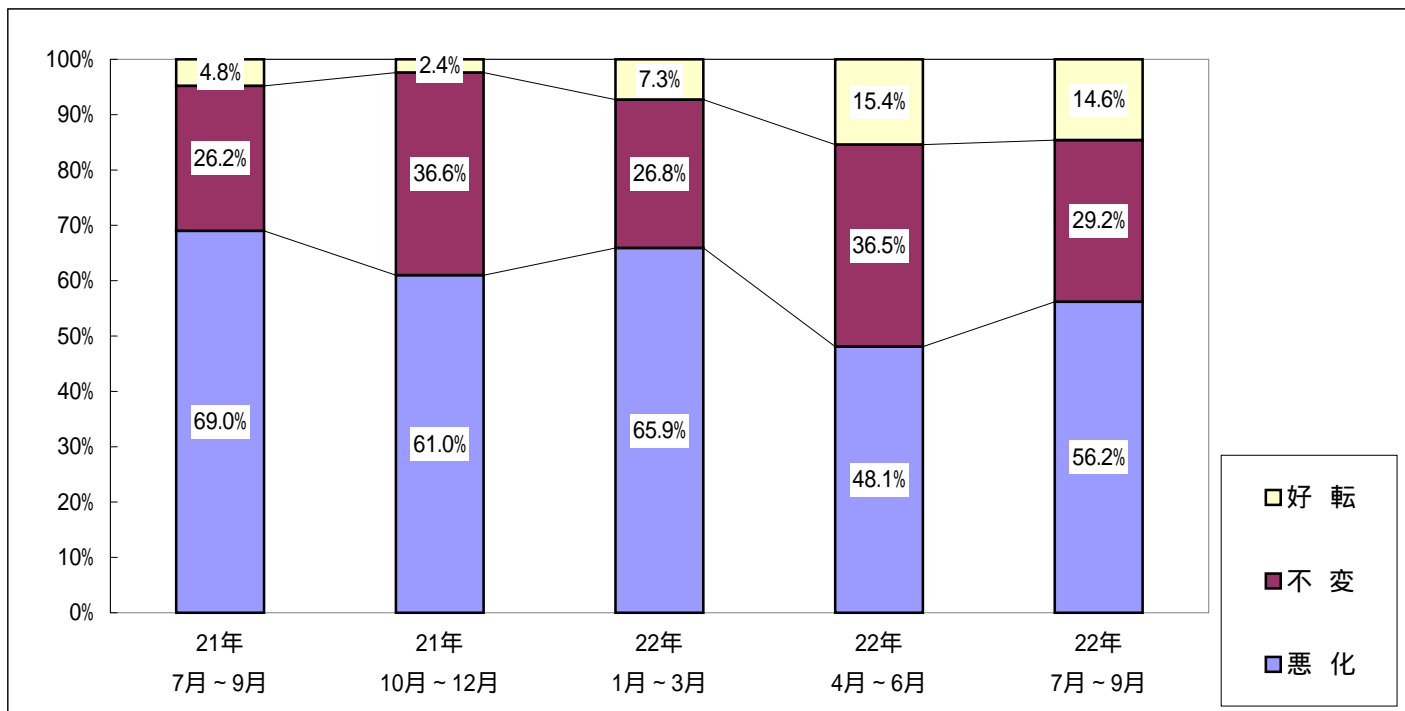
小売業 D・I（景気動向指数）の推移 - 前年同期比 -



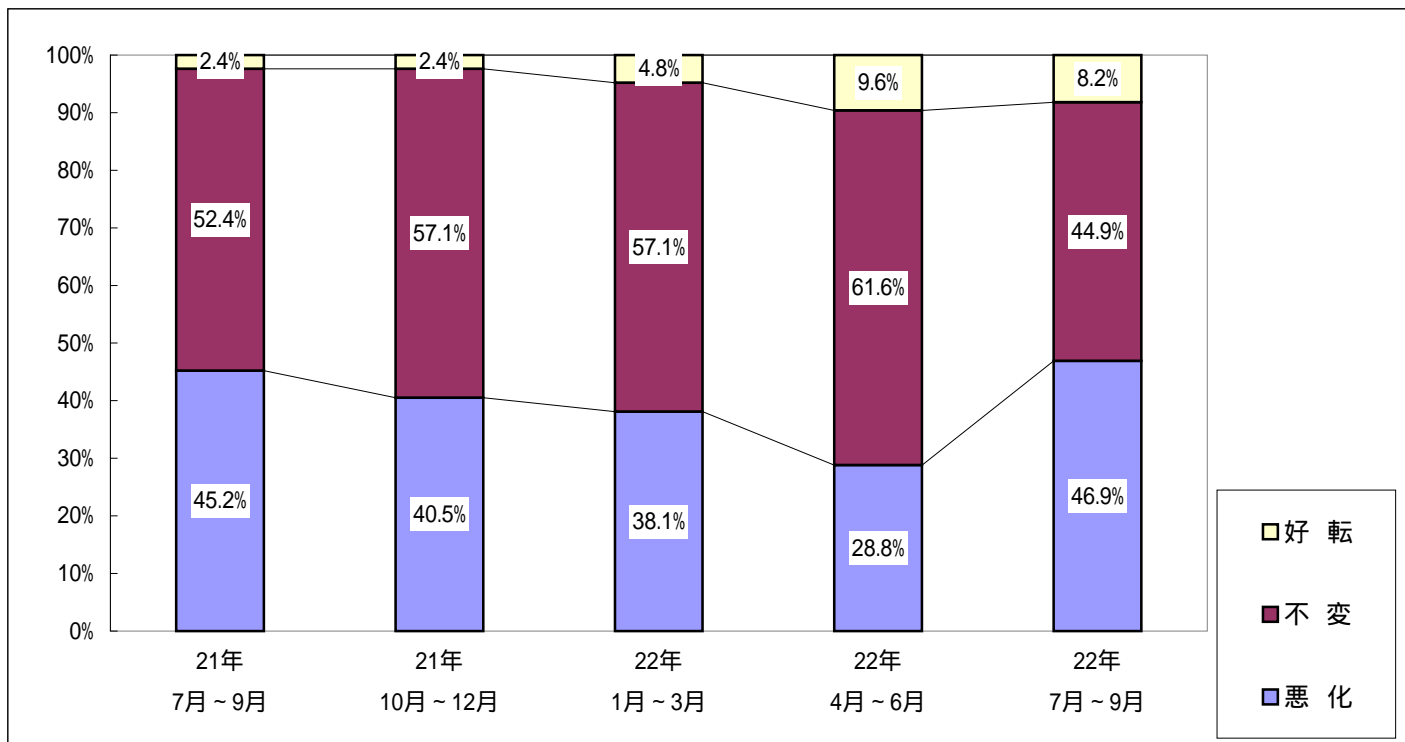
売上額の状況 前年同期比（D・I値）



採算の状況 前年同期比（D・I値）



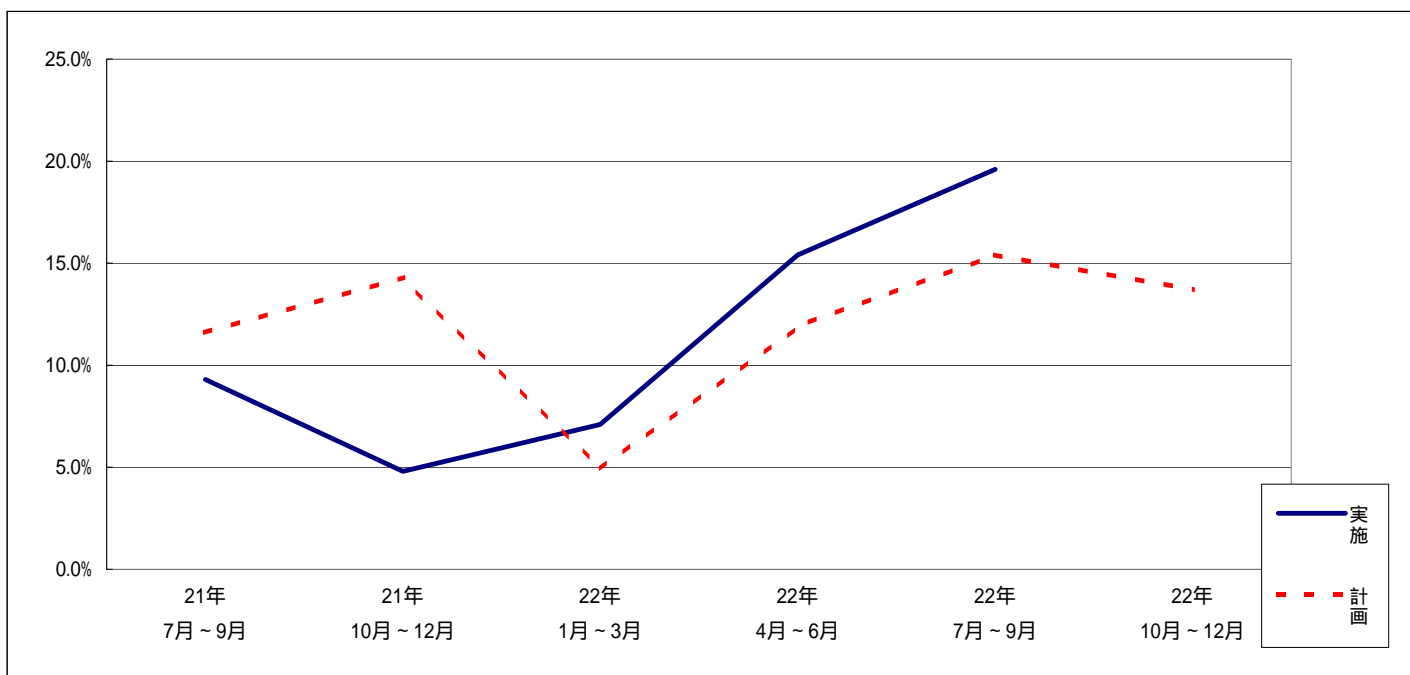
資金繰りの状況 前年同期比（D・I値）



設備投資の状況

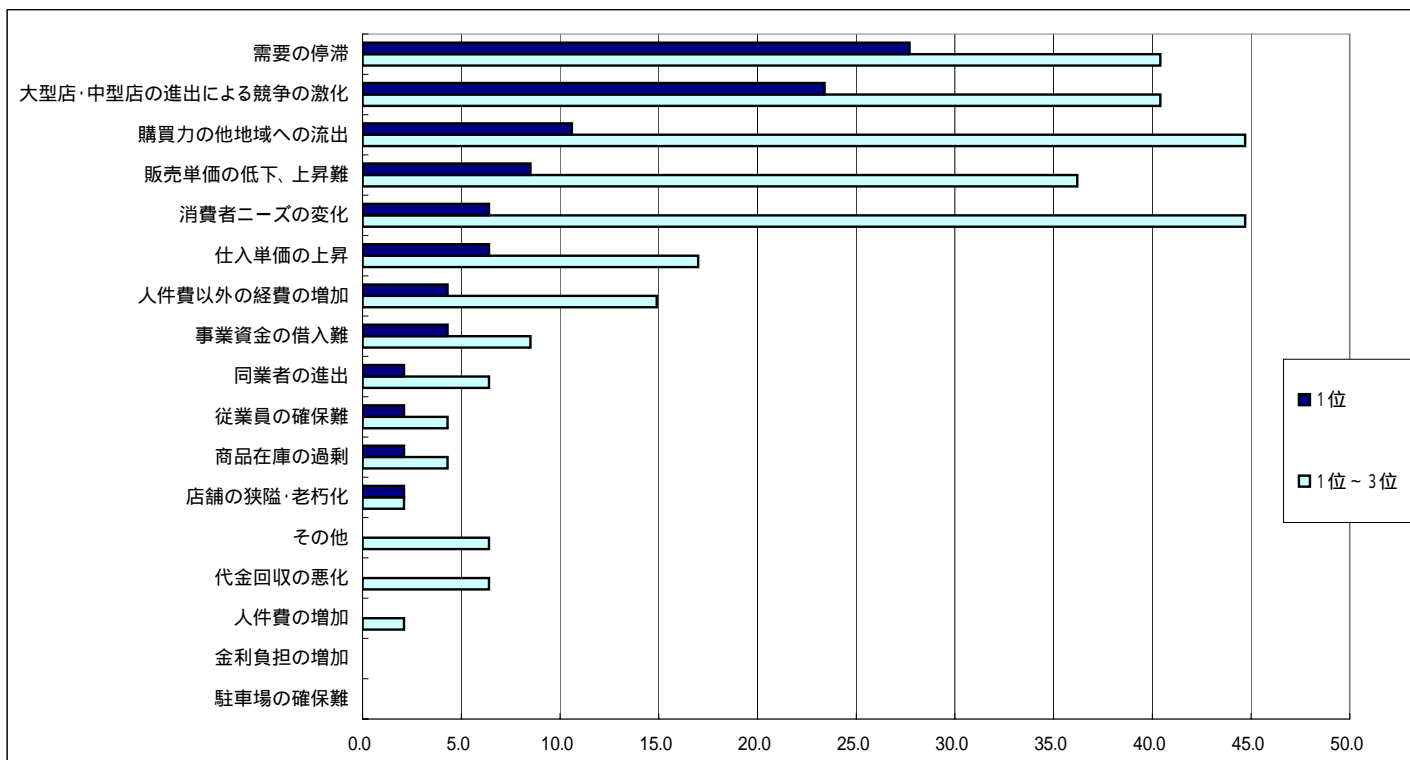
小 売 業	21年 7月～9月	21年 10月～12月	22年 1月～3月	22年 4月～6月	22年 7月～9月	22年 10月～12月
土 地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
車両・運搬具	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	42.9%
販売設備	50.0%	0.0%	33.3%	37.5%	10.0%	42.9%

22年10月～12月期については計画の数値を入力



計画については調査実施時期を基準に翌期の予定を記入のため折線グラフに期の差が生じる。

経営上の問題点



(注) 問題点の1位にあげた企業の割合

6. サービス業の景況

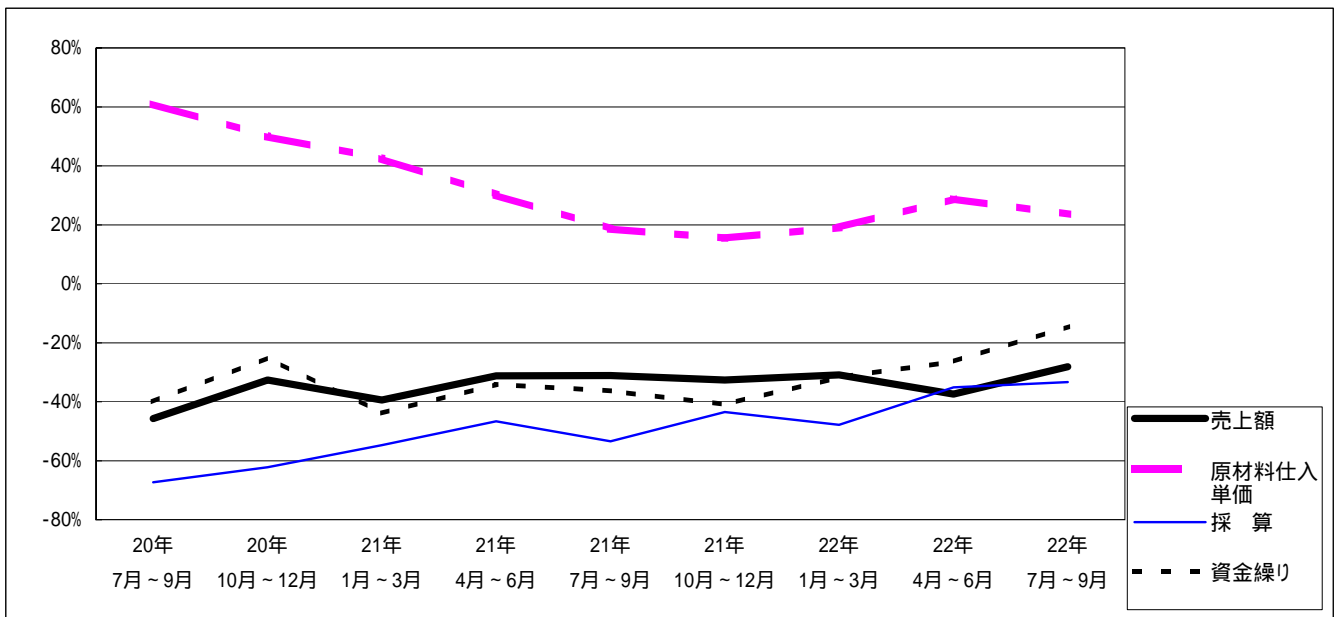
サービス業の推移

・D・I（景気動向指数・前年同期比）は、売上額がマイナス28.1（前期比9.3ポイント上昇）、採算はマイナス33.3（同1.8ポイント上昇）、資金繰りはマイナス14.5（同11.9ポイント上昇）となり厳しい状況が続いているが全般的にはなだらかな改善となっている。

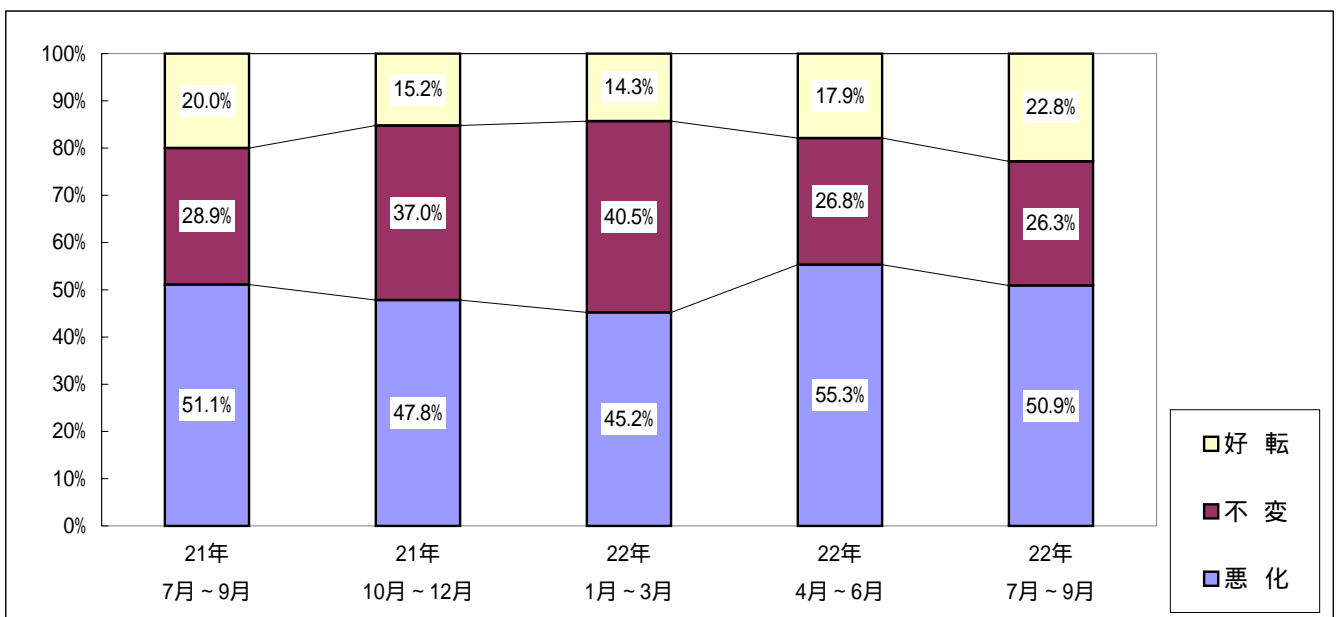
経営上の問題点については依然として『需要の停滞』が多くを占め1位となり、『利用者ニーズの変化』が引き続き2位を占めている。

サービス業	21年 7月～9月	21年 10月～12月	22年 1月～3月	22年 4月～6月	22年 7月～9月	22年 10月～12月
売上額	-31.1%	-32.6%	-30.9%	-37.4%	-28.1%	-15.8%
原材料仕入単価	18.6%	15.5%	19.1%	28.8%	23.6%	22.0%
採算	-53.4%	-43.5%	-47.8%	-35.1%	-33.3%	-22.2%
資金繰り	-36.3%	-40.9%	-31.7%	-26.4%	-14.5%	-20.0%

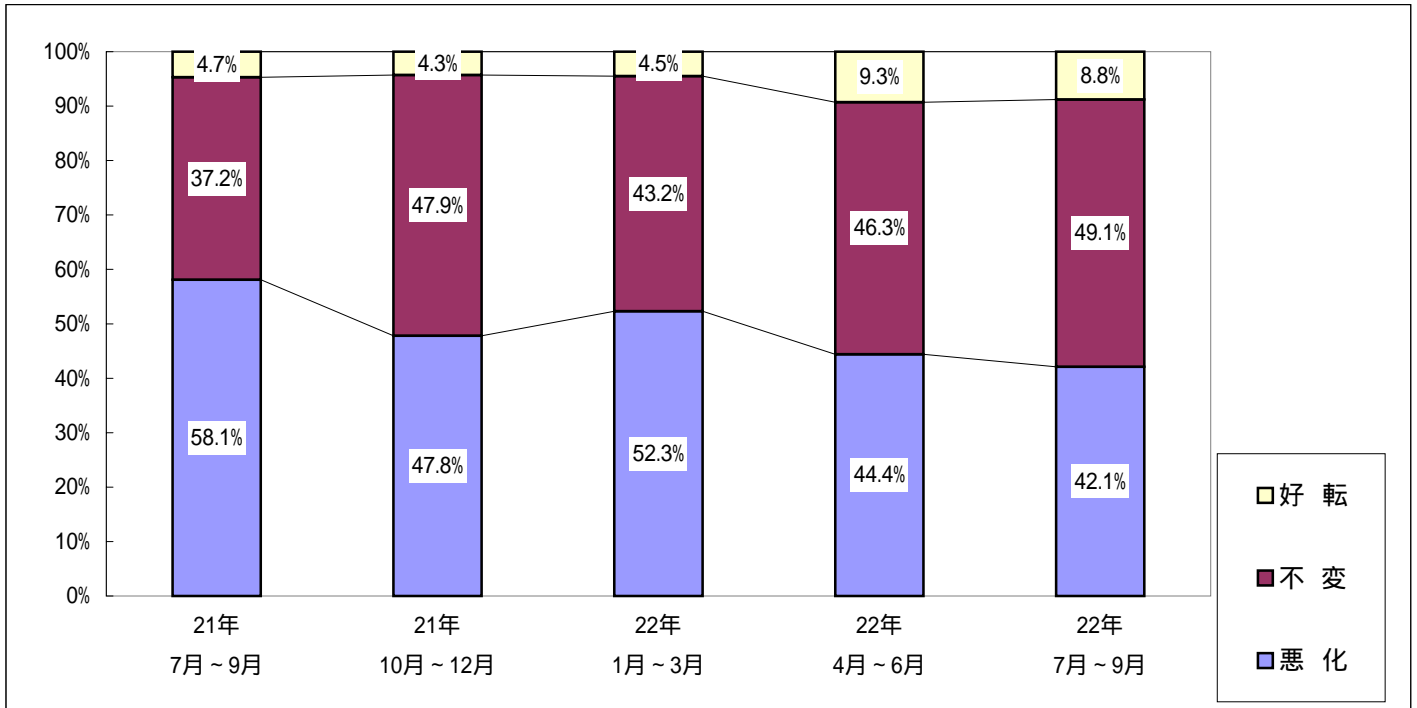
サービス業 D・I（景気動向指数）の推移 - 前年同期比 -



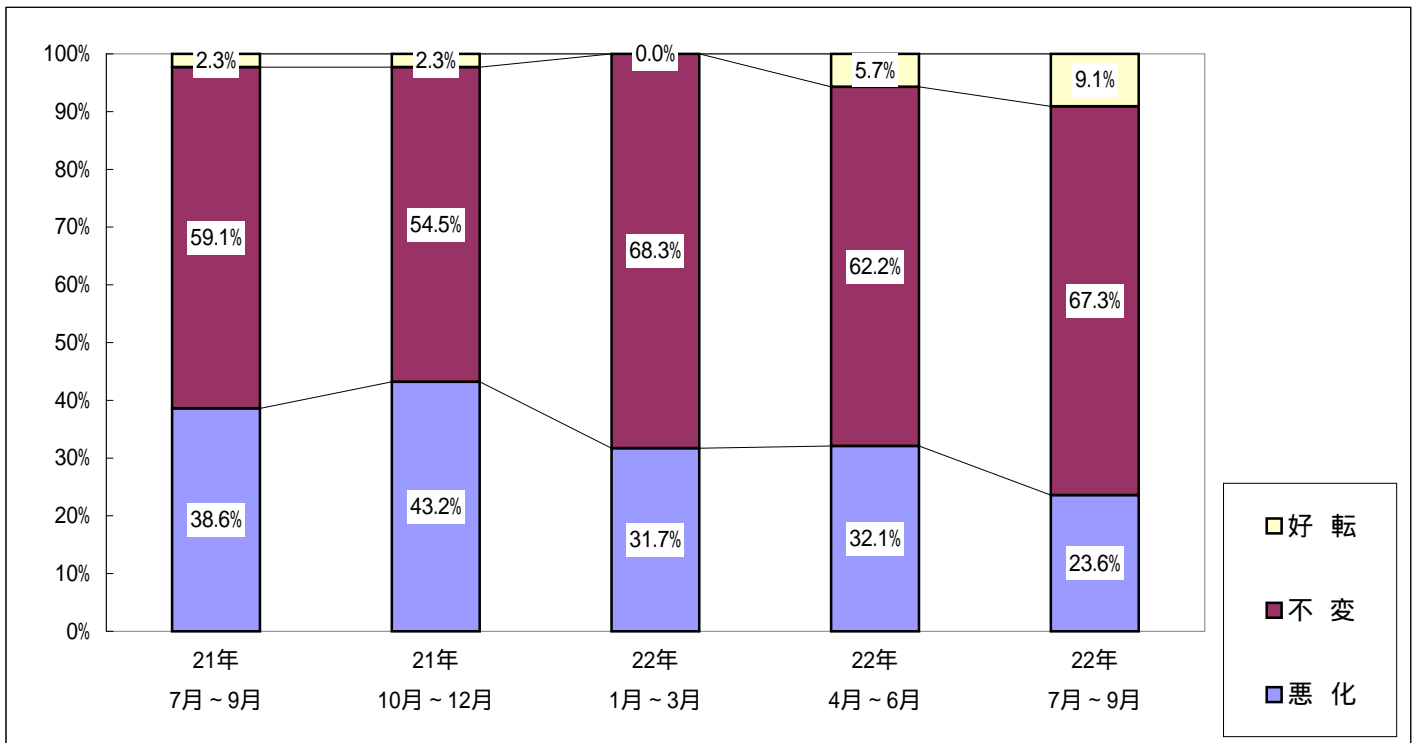
売上（収入）額の状況 前年同期比（D・I値）



採算の状況 前年同期比（D・I値）



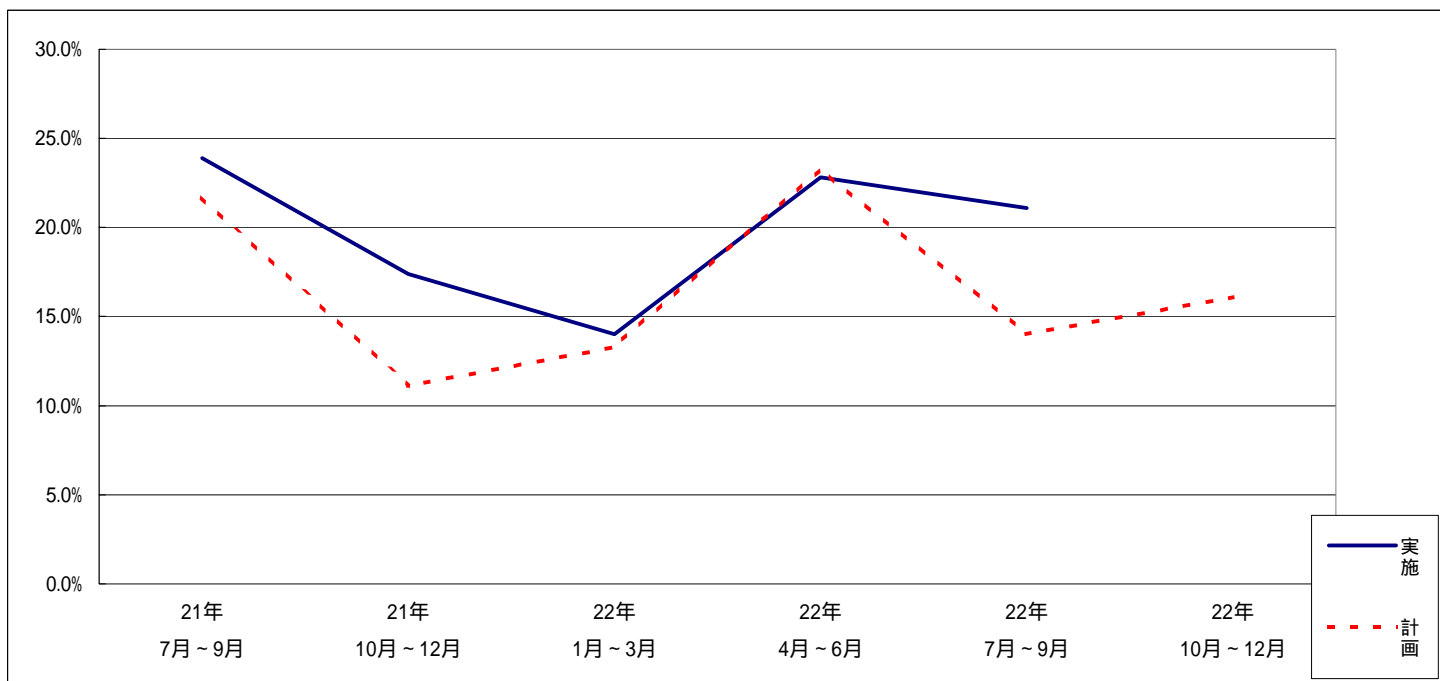
資金繰りの状況 前年同期比（D・I値）



設備投資の状況

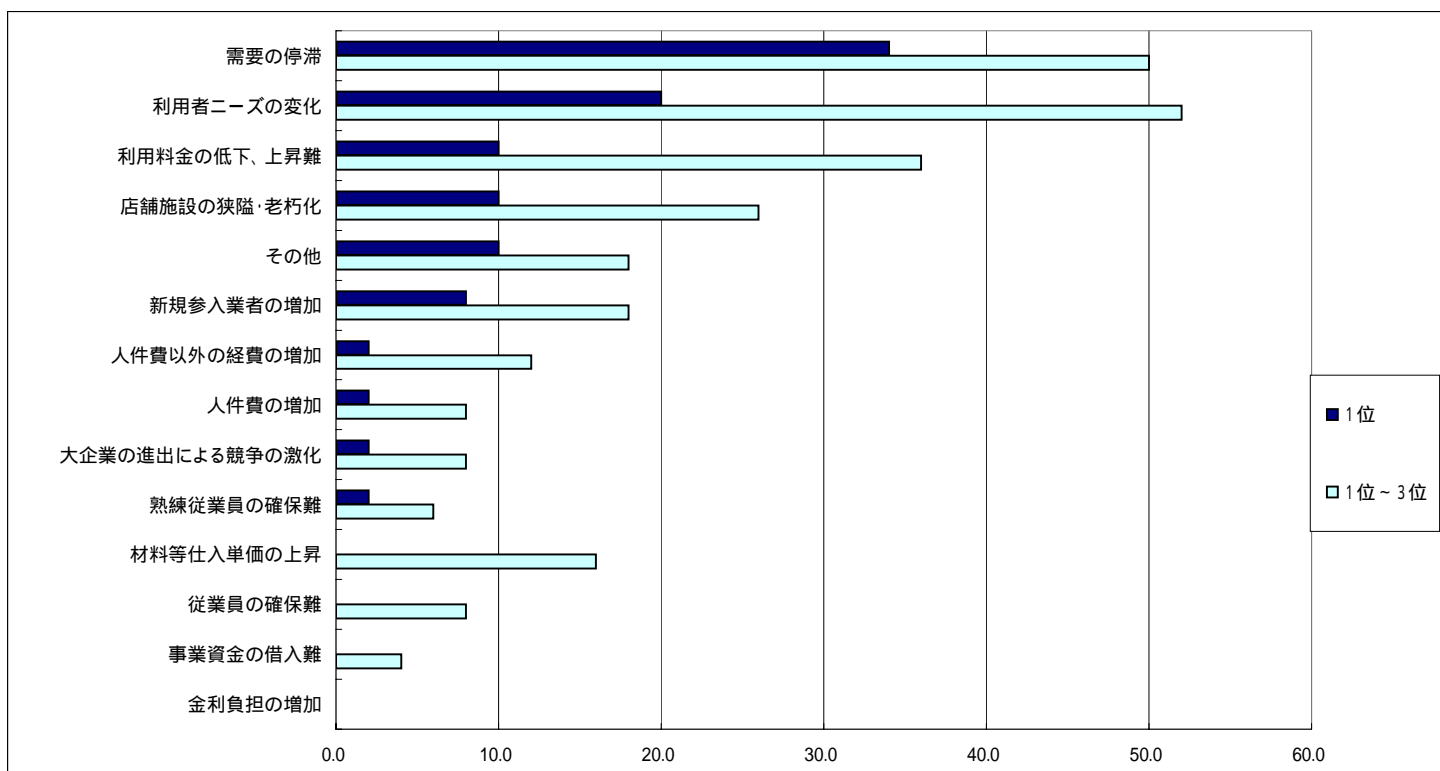
サービス業	21年 7月～9月	21年 10月～12月	22年 1月～3月	22年 4月～6月	22年 7月～9月	22年 10月～12月
土地	0.0%	12.5%	0.0%	7.7%	0.0%	11.1%
車両・運搬具	18.2%	37.5%	33.3%	23.1%	33.3%	11.1%
サービス設備	27.3%	12.5%	33.3%	38.5%	41.7%	22.2%

22年10月～12月期については計画の数値を入力



計画については調査実施時期を基準に翌期の予定を記入のため折線グラフに期の差が生じる。

経営上の問題点



(注)問題点の1位にあげた企業の割合

京都府商工会連合会

京都市右京区西院東中水町17番地

(西大路通り五条下ル東側)

京都府中小企業会館四階

郵便番号 615-0042

TEL. (075) 314-7151

FAX. (075) 315-1037

e-mail:office@kyoto-fsci.or.jp